

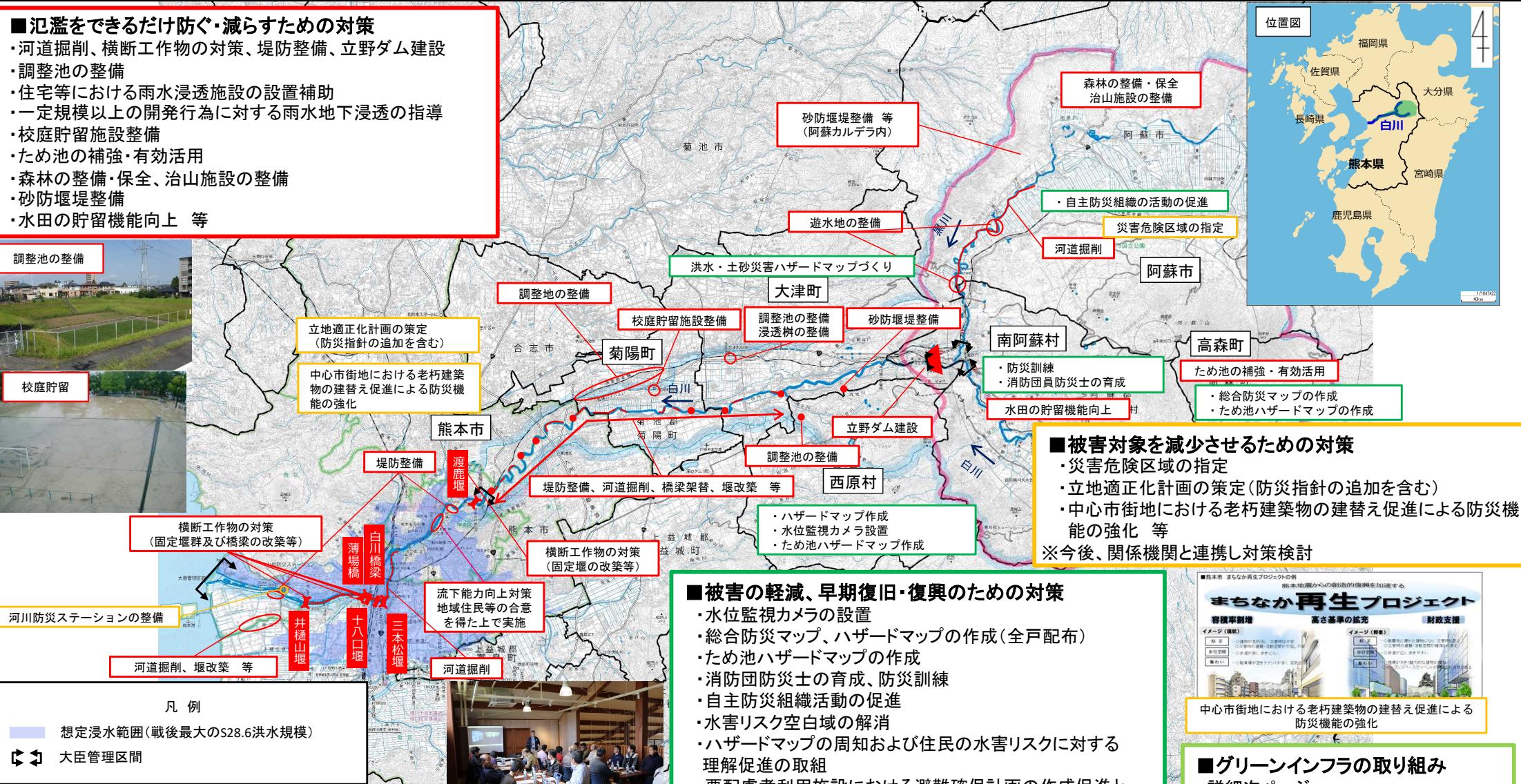
白川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～上流から河口まで一本でつながる治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策～

○ 令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、白川水系においても、上流の阿蘇カルデラ内で降った雨が集まり、一気に中下流へ流下されるという流域の特性を踏まえ、河道掘削や横断工作物の対策、堤防整備などの事前防災対策を進めることで、国管理区間においては、近年最大の平成24年7月規模の洪水を安全に流し、それを上回る戦後最大の昭和28年6月規模の洪水と同規模の洪水に対して堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、横断工作物の対策、堤防整備、立野ダム建設
- ・調整池の整備
- ・住宅等における雨水浸透施設の設置補助
- ・一定規模以上の開発行為に対する雨水地下浸透の指導
- ・校庭貯留施設整備
- ・ため池の補強・有効活用
- ・森林の整備・保全、治山施設の整備
- ・砂防堰堤整備
- ・水田の貯留機能向上 等



■ 被害対象を減少させるための対策

- ・災害危険区域の指定
 - ・立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)
 - ・中心市街地における老朽建築物の建替え促進による防災機能の強化 等
- ※今後、関係機関と連携し対策検討

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水位監視カメラの設置
 - ・総合防災マップ、ハザードマップの作成(全戸配布)
 - ・ため池ハザードマップの作成
 - ・消防団防災士の育成、防災訓練
 - ・自主防災組織活動の促進
 - ・水害リスク空白域の解消
 - ・ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組
 - ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保 等
- ※今後、関係機関と連携し対策検討



■ グリーンインフラの取り組み

詳細次ページ

※ 具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

防災士育成の様子(防災セミナー)

白川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～上流から河口まで一本でつながる治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策～

- 白川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国・県・市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】立野ダムの完成、堤防整備及び河道掘削を実施することにより県庁所在地である熊本市等の洪水被害軽減を図る。また、県管理区間においても遊水地整備を実施するとともに、流域として雨水貯留施設の整備等を進めることで、流域内の被害軽減を目指す。
 - 【中期】洪水の流下阻害になっている横断工作物（堰）について改築等実施するとともに継続して堤防整備及び河道掘削を実施することにより、洪水を安全に流下させ、沿川の浸水軽減とともに災害危険区域の指定等により被害の最小化を目指す。
 - 【中長期】本川上流部の浸水被害を防ぐため、継続して横断工作物（堰）の改築、堤防整備及び河道掘削、県区間においては遊水地整備を実施することで、流域全体の治水安全度向上を図る。
- あわせて、ハザードマップや防災マップ、自主防災組織活動等のソフト対策を行う等、流域が一体となった防災・減災対策を推進する。

■河川対策 (約1,680億円)
■砂防対策 (約157億円)

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、横断工作物の対策、堤防整備、橋梁架替、遊水地整備	国土交通省 熊本県	河道掘削等	横断工作物の対策(国)	横断工作物の対策(県)
	立野ダム建設	国土交通省			三本松堰、十八口堰完了
	土砂洪水氾濫対策	国土交通省、熊本県	砂防堰堤整備		
	流域の雨水貯留機能向上	熊本市、大津町、菊陽町、高森町、西原村、南阿蘇村	一定規模以上の開発行為に対する雨水貯留施設設置指導	調整池・校庭貯留施設等の改修・整備	雨水貯留施設の設置補助
	森林の整備・保全 治山施設の整備	熊本県、熊本森林管理署、森林整備センター熊本水源林整備事務所	間伐等による森林の整備・保全、治山施設の整備・保全	ため池の補強・有効活用	水田の貯留機能向上
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	国土交通省 熊本市 阿蘇市	防災ステーションの整備・維持管理	土砂災害特別警戒区域からの移転促進、がけ地近接等危険住宅移転事業	中心市街地における老朽建築物の建替促進による防災機能の強化
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	国土交通省、熊本県、菊陽町、西原村	危機管理型水位計の設置	河川カメラの設置	
	避難体制等の強化	国土交通省、熊本県、熊本市、阿蘇市、大津町、菊陽町、高森町、西原村、南阿蘇村	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	防災情報伝達の迅速化、多重化	防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等
グリーンインフラの取組み	治水対策における多自然川づくり	国土交通省、熊本県			
	魅力ある水辺空間・賑わい創出	国土交通省・熊本市	白川熊本市街部かわまちづくり		
	自然環境が有する多様な機能活用の取組み	国土交通省			



※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

白川水系流域治水プロジェクト 【位置図】

～上流から河口まで一本でつながる治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策～

●グリーンインフラの取り組み 『沿川住民や水際の動植物にとって安全で心地よい空間の創出』

○上流域では、ほぼ全域が「阿蘇くじゅう国立公園」に指定され、雄大な火山景観、牧草地やススキ等の草原に覆われた山腹景観、阿蘇北向谷原始林を中心とした渓谷景観、南郷谷を中心とした清浄な湧水源、内牧温泉を中心とした温泉群など優れた観光資源を有し、中・下流域においては、金峰山県立自然公園の一部である立田山のヤエクチナシ自生地や熊本市街部の白川沿いの緑地など、豊かな自然を有している。

○白川が流れる熊本市街部を「くまもとの顔」として活性化し、魅力ある都市空間づくり等を目指し、白川の河岸部を活用して自転車通行などを快適かつ円滑に行い、上下流の交流促進、河川の利活用による地域活性化、河川景観の向上、河川利用者の安全性の向上を図るため今後概ね10年間で、白川市街部かわまちづくりを進めるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。

●治水対策における多自然川づくり

- ・魚類等に配慮した水際の保全・整備
- ・野鳥の生息場となっている河畔林や河道内樹木、植生群の保全
- ・魚類に配慮した縦断的連続性や避難場所の確保
- ・多様な生物の生息・生育環境の保全
- ・アユの産卵場の保全
- ・ツルヨシ等の水辺植生の復元

●魅力ある水辺空間・賑わい創出

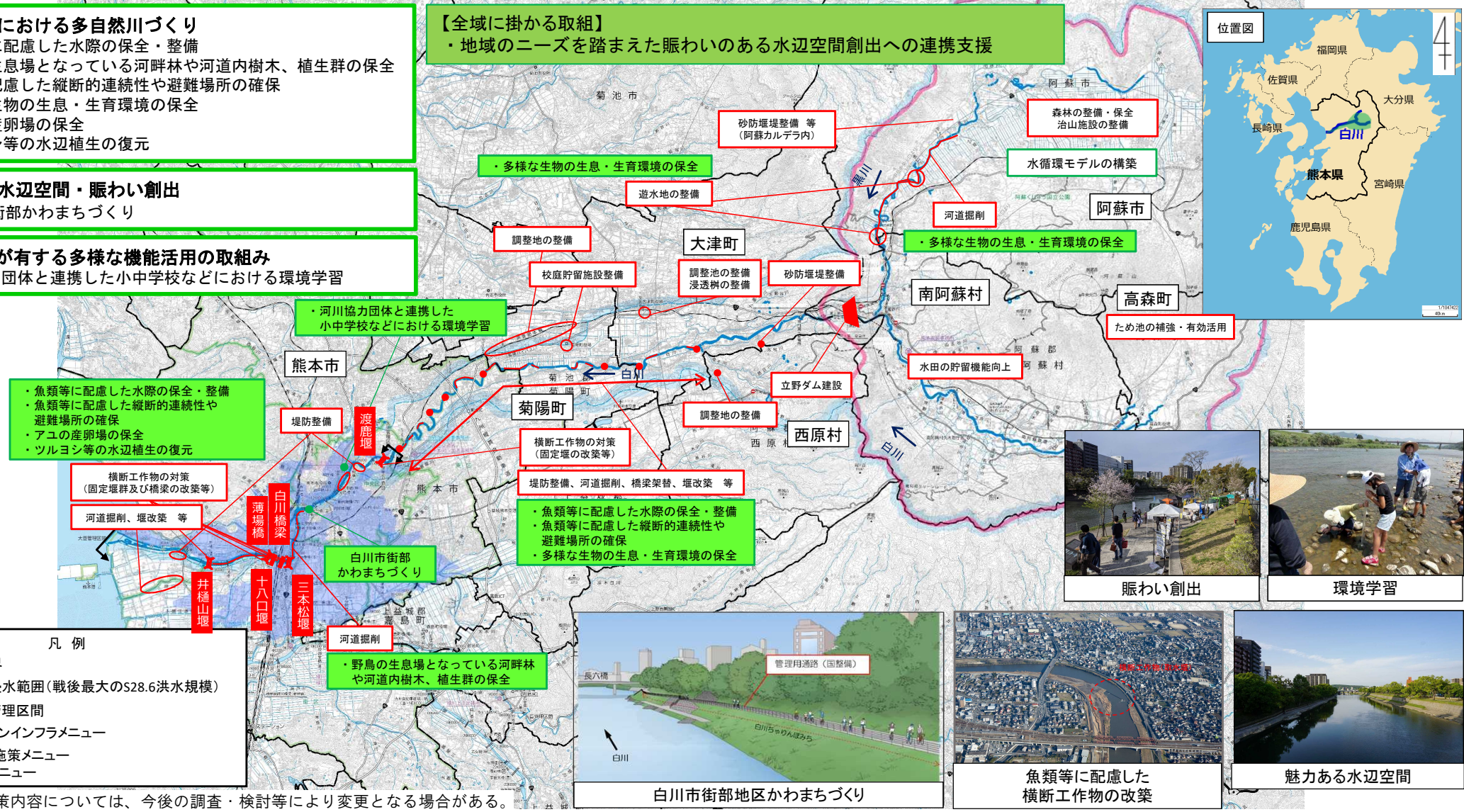
- ・白川市街部かわまちづくり

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・河川協力団体と連携した小中学校などにおける環境学習

【全域に掛かる取組】

- ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携支援



凡例

	流域界
	想定浸水範囲(戦後最大のS28.6洪水規模)
	大臣管理区間
	グリーンインフラメニュー
	ソフト施策メニュー
	治水メニュー

※ 具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

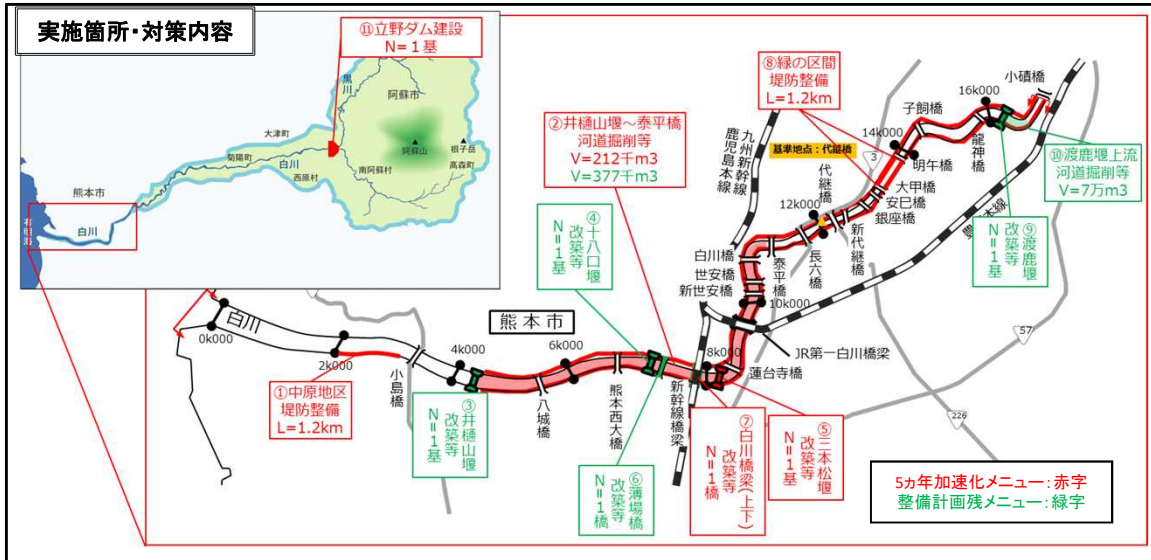


白川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

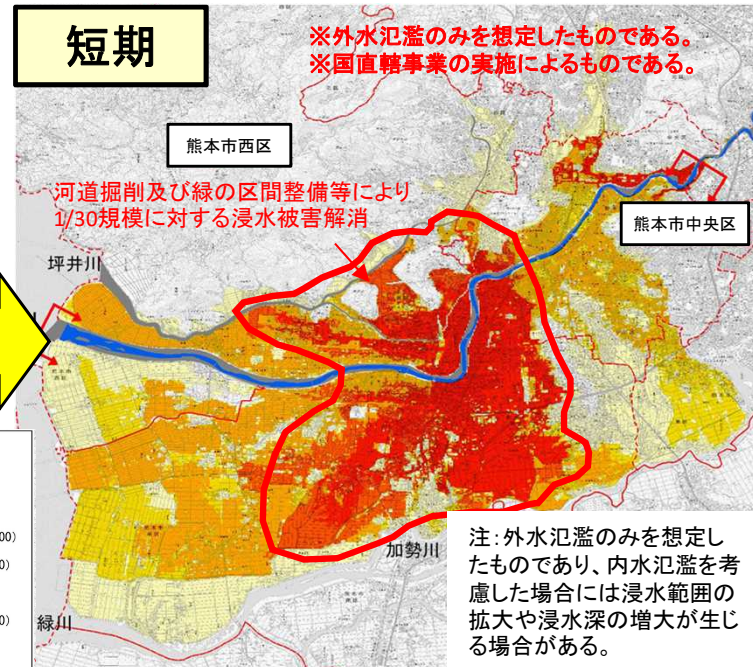
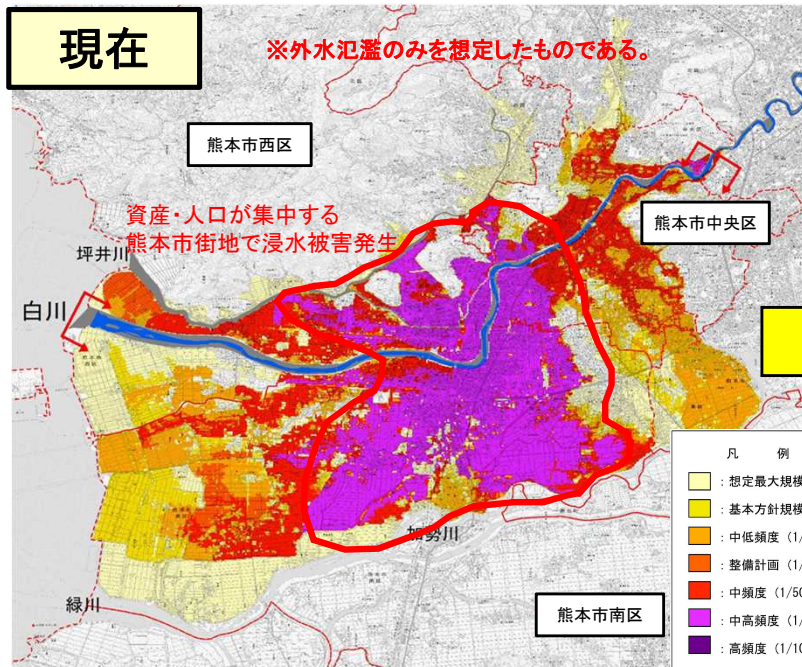
～上流から河口まで一本でつながる治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策～

短期整備(5か年加速化対策)効果 : 河川整備率 約48%→約55%

立野ダムの完成、危険箇所である中流部蓮台寺地区等の河道掘削や緑の区間の堤防整備により、整備計画流量(1/60規模)の洪水でも熊本市街地で堤防からの越水を回避することが可能。



区分	区間	箇所	対策内容	工程		
				短期(令和3年度～令和7年度) 全川 概ね1/30～1/30	中期(令和8年度～令和15年度) 河口～子飼橋 1/30～1/60 子飼橋～直轄上流端 1/30	長期(令和16年度～令和31年度) 全川 1/60
氾濫を できるだけ 防ぐ・減らす ための対策	河口～井樋山堰	①左岸2k000～小島橋 (中原地区)	堤防整備	100%		
	井樋山堰～泰平橋	②井樋山堰～泰平橋	河道掘削 護岸補強	36%	70%	100%
		③井樋山堰			100%	
		④十八口堰	固定堰改築		100%	
		⑤三本松堰		40%	100%	
		⑥薄場橋	橋梁改築		100%	
		⑦白川橋梁	橋梁改築	70%	100%	
	泰平橋～子飼橋	⑧大甲橋～明午橋 (緑の区間)	堤防整備	100%		100%
	子飼橋～小磯橋	⑨渡鹿堰	固定堰改築			100%
		⑩渡鹿堰上流	河道掘削			100%
	立野ダム区間	⑪立野ダム	ダム建設	100%		



※スケジュールについては今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

- 【短期整備完了時の進捗】**
- ①中原地区 堤防整備 0%→100%
 - ②井樋山堰～泰平橋 河道掘削等 0%→36%
 - ⑤三本松堰 改築 0%→40%
 - ⑦白川橋梁 改築 0%→70%
 - ⑧緑の区間 堤防整備 0%→100%
 - ⑫立野ダム 建設 100%

注: 外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～上流から河口まで一本でつながる治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：55%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



1市町村

（令和4年度末時点）

流出抑制対策の実施



4施設

（令和3年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 **3箇所**

（令和4年度実施分）

砂防関係施設の
整備数 **6施設**

（令和4年度完成分）

※施工中 16施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



1市町村

（令和4年12月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 **16河川**

（令和4年9月末時点）

※一部、令和4年3月末時点

内水浸水想定
区域 **0団体**

（令和4年9月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保
計画 洪水 **1207施設**

（令和4年9月末時点）

土砂 **105施設**

（令和4年9月末時点）

個別避難計画 **7市町村**

（令和4年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【立野ダム建設】(国土交通省)



立野ダムの工事状況(令和5年3月)
(上流側より望む)

白川沿川の洪水被害の防止又は軽減、また避難時間の確保を目的とした流水型ダムを令和5年度内の完成を目標に建設中。

【河道掘削】 (国土交通省)



白川水系河川整備計画に基づき、治水安全度が低い箇所河道掘削を実施中。

被害対象を減少させるための対策

【中心市街地における老朽建築物の建替え促進による防災機能の強化】 (熊本市)

熊本市 まちなか再生プロジェクトの例
熊本地震からの創造的復興を加速する

まちなか再生プロジェクト

容積率割増 高さ基準の拡充 財政支援

イメージ(現状)

- 結果
 - 老朽建築物が密集し、災害時は不安
 - 災害時の避難・活動空間が不足、不安
 - 歩道が狭く、歩きにくい
 - 駐車場や空きテナントが多く、活気不足
- イメージ(将来)
 - 防災
 - 耐震性に優れた建物になり、災害時安心
 - 災害時の避難・活動空間が確保される
 - 歩行空間
 - 歩道が広く、歩きやすい
 - 賑わい
 - 規模が大きく魅力的な建物が増える
 - アンプスペースでイベントが開催可能になる

災害に強く魅力と活力ある中心市街地の創造

老朽建築物の建替え等を促すとともに、空地を生み出すことで災害時の避難・活動空間を確保するなど、災害に強い上質な都市空間を創出。また水害時でも建物の機能が確保されるよう電気設備等の浸水対策※を図ることを条件とし、財政支援に取り組んでいる。 ※浸水想定深以上に、電気設備を配置すること等。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

【ハザードマップ等を活用した情報発信】 (熊本市)

誰もが気軽に確認できる
防災情報を発信します!!

熊本市が気象庁から提供されるハザードマップ等の防災情報を、スマートフォン版や紙版で広く発信しています。また、避難所や避難ルートの混雑状況や避難ルートも閲覧可能にしました。

避難所や避難ルートの混雑状況や避難ルートも閲覧可能にしました。

平時に確認しておきたい4つのポイント

避難所がどこですか？

避難所以外に避難する場合はありますか？

避難所や避難ルートの混雑状況や避難ルートも閲覧可能にしました。

熊本市災害情報メール

熊本市災害情報メール

熊本市災害情報メール

出水期前に市政だよりで重点的に広報
ハザードマップのスマートフォン版を令和3年4月から本格運用、紙版については令和3年3月に全戸配布。
また、防災情報ポータルを更新し、避難所の混雑状況や避難ルートも閲覧可能にした。
システムの活用については、出水期前に熊本市広報誌及びマスメディアを活用して周知啓発を行った。